

2026 年第 37 週の報告です。

インフルエンザは今週も増加し、丹後では今シーズン初の流行発生注意報基準値超えとなりました。山城北の咽頭結膜熱の報告は今週も警報レベルが続いています。

全数把握対象疾患は、結核が 5 件、腸管出血性大腸菌感染症が 3 件、A 型肝炎・アメーバ赤痢・カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症とクロイツフェルト・ヤコブ病がそれぞれ 1 件、レジオネラ症と梅毒がそれぞれ 4 件報告されています。

今週は結核の報告が 5 件ありました。

結核は時に「過去の病気」のように扱われますが、現在でも世界的に重要な感染症です。世界では、単一の感染性病原体による死亡原因として結核が最も多く ([2026 年 3 月 WHO](#))、日本でも決して過去の病気ではありません。

日本は長年、米国や西ヨーロッパに比べ結核の罹患率が高く、世界では「中まん延国」と位置づけられてきました。しかし 2021 年に初めて「低まん延国」となり、その後もその状態を維持しています。

一方で、京都府の結核罹患率は全国的に見ても高水準にあります。少なくとも過去 5 年は都道府県別でワースト 10 位内に位置しており、また 2022 年以降は増加傾向がみられていました。そのような中、2025 年は 10 万人当たり 9.3 人となり、2024 年の 10.1 人からやや減少しました。

京都府における新規結核患者の約 3 分の 2 は 70 歳以上の高齢者です。また、府内では近年、複数の治療薬が効かない多剤耐性結核の発生や、高齢者施設等における集団感染など、さまざまな課題が出てきています。

毎年 9 月 24 日～30 日は結核・呼吸器感染症予防週間及び非結核性抗酸菌症啓発週間です。結核は正しい知識のもとで適切に対応すれば、予防や治療が可能な病気です。

この機会に、結核や非結核性抗酸菌症について正しい知識を身につけ、早期受診や予防について考えてみましょう。

[結核・呼吸器感染症予防週間／京都府ホームページ](#)

[ご存じですか？非結核性抗酸菌症（NTM 症）～『長引く咳に、NTM 症という視点を』／](#)

[京都府感染症情報センター](#)

[結核 | 厚生労働省](#)